

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:令和7年7月13日

(職員話し合い令和7年7月1日実施)

事業所名:きぼうっこのぞみ

区分		チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1	利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	療育の部屋と自由遊びの部屋を分け、スペースを十分に確保できるようにしている。また、使用しない教材などは倉庫に収納し、刺激を少なくし部屋を有効的に使うことが出来るようにしている。	はい98%、どちらともいえない2%	引き続き、十分なスペースを確保できるようにする。また、療育の内容に合わせて、臨機応変に部屋の広さを変えていく事ができるようにしていく
	2	職員の適切な配置	基準の職員以上の職員を必ず配置している言語聴覚士や心理担当職員、音楽療法士など療育内容に合わせて職員を配置している	はい98%、どちらともいえない2%	職員の取得資格についてはきぼうっこ便りや保護者会などお伝えしている。今後も保護者の方が安心してお子様を預ける事ができるように伝え、療育内容に合わせて職員配置をする
	3	本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	口頭のみでは伝わりにくい子どもには視覚的に、絵カードやスケジュールを個別に提示するなど工夫している 遊びの部屋、療育の部屋などと活動別に部屋を分ける等の工夫をしている	はい93%、どちらともいえない5%、わからない2%	引き続き、お子様の様子あわせて視覚支援(絵カードなど)も行い、安心して過ごしやすい環境を整備していく
	4	清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	毎日の掃除以外の場面でも、使用するおもちゃや療育用品などの衛生面には特に配慮している。現在はアルコール消毒のほかにUV殺菌消毒ランプで消毒をしている		
業務改善	1	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	部門別管理目標を職員で考え、振り返りも全職員で行っている tipsミーティングを導入し、療育の内容や指導方法について改善案を話し合い、常にPDCAサイクルを意識して療育に取り組んでいる		
	2	第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	実施していない		
	3	職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	外部講師を招いての研修や法人・事業所内研修に参加している また、外部研修にも研修計画に基づき参加している		
適切な支援の提供	1	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	個別支援計画立案時には、保護者の意見を伺い、アセスメントをしっかりとした上で計画を立てている。また必ず保護者とモニタリングを実施し、担当者支援会議を全職員で開き、次の個別支援計画を立案するというサイクルで実施している	はい93%どちらともいえない7% 子に合わせて細かいご配慮していただいてありがとうございました	引き続き、子どもの様子を伺い、課題点などを分析・アセスメントを行う また、計画作成後も常に子どもの様子をモニタリングし、支援に反映できるようにしていく
	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成			
	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載			
	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	個別支援計画の内容に沿って支援をしている 全職員で支援会議や毎日のフィードバックなどを通じて支援内容を共有している		
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	クラス担当職員中心にプログラム内容を設定し、細かい児童の対応方法は職員間で話し合って立案している 子どもの様子を見ながらその都度対応方法を検討している		
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	休日には、家族参加型のおもいほりやバーベキュー等希望者が参加できる行事を実施した。また平日の療育にも、家族参加型の行事を実施し、保護者やきょうだい児も一緒に楽しめるよう支援している 夏休みには、夏季療育クラスを設定し希望者に参加していただいている	はい86%、どちらともいえない10%、わからない4%	引き続きプログラムは職員で立案し、共有実施していく。スモールステップで取り組み、「できた」と言う経験ができるように内容を検討する。 また、プログラム内容などについて保護者へ伝わりやすいよう、口頭のみでなくプログラム内容を掲示するなど、WEBカメラと併用して伝わりやすいようにする。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	季節行事や季節の歌を取り入れる事で、固定化されないように工夫している。また、SSTのプログラムも取り入れ、スモールステップで出来ることを増やしていけるようにプログラムを工夫している		
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	毎回必ず朝のミーティングで行っている(時間差で出勤する職員にもその都度伝えている)当日の担当業務を表で表し、分かりやすくしている		
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	毎回必ず療育終了後に振り返りを行い次の支援に繋げていくことが出来るようにしている		
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	毎回記録をしっかりと取り、全職員で振り返りを行うことで、次の療育時に改善点を反映させている 個別療育の内容は毎回記入し保護者にも見て頂いている(フィードバックもしている)		

区分		チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	最低6か月に一回実施している また子どもの様子を見て、モニタリング時期を早める等定期的に見直しを行っている		
	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	必要に応じて相談支援事業所と連携し、担当者会議に参加することがある		必要に応じて保護者と相談しながら相談事業所と連携し、担当者会議に参加していく (児童発達支援管理責任者や担当職員が参加)保護者希望があれば園にも出向く
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備			
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間の支援内容等の十分な情報共有	必要に応じて事業所での本人の様子をまとめたものを作成し保護者にお渡ししている (必要であればたからっノートの活用もしている) また、幼稚園や保育園などにも、訪問し情報共有を行っている		モニタリングや計画書を通して、子どもの状況を分かりやすく書面に記載し、幼稚園や保育園などにも提出して頂けるようにしていく 保護者からの要望に応じて園へ訪問し、情報共有を行っていく
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、			
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	児童発達支援センター主催の研修などに参加している 毎年、希望される保護者中心にペアレントトレーニングを実施している(9年目である)		
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	当事業所があるコミュニティプラザでは、地域住民との交流を積極的に行うため、コンサートや防犯講座などを開催している また、障害者(児)への理解を広げるため「ブルーアクション」等の啓発活動も実施している		
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営			
保護者への説明責・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時に利用者負担などについて重要事項説明書で説明している 療育の終了後には、当日実施した支援の内容について説明をしている	はい100%	引き続き、丁寧に保護者へ説明を行い、必要に応じて不明点などにも答えしていく
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	契約時に内容説明し、個別支援計画立案時にも保護者に説明している		
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレントトレーニング等の支援の実施	ペアレントトレーニングは年に1回希望者を募って実施している(R6年度は6名の参加者)参加の提案をさせて頂く場合もある また講座終了後もフォローアップ講座を開催している	はい93%、どちらともいえない7%	引き続き、ペアレントトレーニングを実施し、講習の終了後もフォローアップ講座等開催も継続して行っていく 状況に合わせて実施頻度も見直していく
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	療育終了後、個別療育の内容、集団療育の際の子どもの様子など保護者に必ずフィードバックしている		
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	その場で解決できる事はその場で相談に対応している 難しい内容については、持ち帰り、職員間や関係機関と話し、後日保護者へフィードバックさせて頂いている 保護者の希望に応じて、時間を取って相談させて頂くこともあった	はい93%、どちらともいえない5%、わからない2% まだ通い始めたばかりなのでとても悩んだとき、大変支えてくださいました	引き続き、療育後のフィードバックや相談等については、その場で解決できない相談も、職員間で検討し対応していく 場合によっては連絡帳なども使用し情報共有や相談対応を行っていく
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	きぼうっこの合同行事で家族参加型バーベキュー・芋ほりを実施した。また、季節の行事などは保護者参加型の行事として、きょうだい児と一緒に参加出来るプログラムを検討し実施した。 保護者会は年2回実施する事ができた。 また、映画観賞会やコンサートなどコミュニティプラザを活用した保護者参加型の行事も実施している	はい81%、どちらともいえない7%、わからない12% 不参加のため分らないが、機会はあった	今後も引き続き、保護者同士が連携を図る事ができるような行事や機会を設け、保護者支援を行っていく
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	玄関に苦情解決体制の用紙を掲示している 苦情に対しては、法人内で情報共有し水平展開を図りながら、それぞれの事業所の事として、考えるようにしている 法人苦情解決規程に基づいて適切な対応を行っている	はい93%、どちらともいえない5%、わからない2% 機会がなかった	引き続き、苦情に繋がる前に、日頃から保護者とコミュニケーションを図り、解決出来るようにしていく 職員同士でも保護者から聞いた話の内容を情報共有し、迅速に対応出来るようにしていく
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	必要に応じて、相手に伝わりやすい方法で配慮している(メモを渡す、絵カードを使用する、声のかけ方、タイミングを工夫する)	はい98%、わからない2%	引き続き、それぞれの児童の発達特性を考えながら必要な配慮をしていく

区分		チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	行事などは事前に用紙で案内するなどし発信している 毎月ホームページを更新した際には、玄関の扉に更新したお知らせを掲示し情報を発信するようにしている 広報誌は玄関に置き、自由に持ち帰る事ができるようにしている	はい81%、どちらともいえない10%、わからない10%	ホームページが更新された際には、玄関などのスペースなどを活用し、QRコードなどを掲示し、待ち時間などにもアクセスしやすいように改善していく また、広報誌もより手の取りやすい所を検討し設置していく
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	外部からの見学者に対して、見学時の個人情報についての、同意書にサインを頂いていた上で見学して頂いている 事業者間でのやり取り等の書類に関しても、名前を隠すなどしている 法律に基づいて、個人情報はシュレッダーなどで適切に破棄している 個人情報の取り扱いについては、契約時に冊子を用いて詳しく説明している	はい86%、どちらともいえない5%、わからない10%	引き続き、適切な取り扱いを行っていく 不明点等あればその都度対応していく
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	契約時に緊急時の対応について説明をしている また、避難訓練の実施時に訓練方法などについてメモや玄関前に掲示してお知らせした	はい83%、どちらともいえない2%、わからない14%	マニュアルは職員間で情報共有をしていく また、保護者にも自由に閲覧できることをお知らせしていく
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	年に2回定期的に避難訓練を実施し、職員自身が避難経路や災害に備えた訓練が出来るようにしている また、コミュニティプラザ全体での避難訓練にも年2回参加し、他事業所も協力し合いながら訓練を実施した	はい86%、わからない14%	引き続き、避難訓練実施前に保護者に書面などで実施内容を周知していく 定期的に実施する他に、日頃から職員間で確認し非常時に備えておく
	3	虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	法人虐待対応マニュアルにより職員への周知を図っている 法人内研修に参加している 虐待防止チェック表を実施し、自分の対応方法を振り返るようにしている(職員会議も実施)		
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	身体拘束は行っていないが、やむ得ず子どもの行動を制止する必要がある場合には、事前に保護者に説明し、了解を得るようにする		
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	契約時、面談シートにて食物アレルギー等の聞き取りを保護者から行っている いろいろなアレルギーがあり、把握しきれない部分もあるため、クッキング行事は実施していない		
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	記録に残し、法人内、事業所内で共有し、改善案を検討し実施している(法人の委員会で話し合いをすることもある)		ヒヤリハットは小さなことでも記録を残す事をしている。また、その内容を必要に応じて報告書として挙げ、情報共有している。
満足度	※	子どもは通所を楽しみにしているか 事業所の支援に満足しているか	楽しんで来所して頂けるように、療育内容の工夫や、環境を設定するように努力している 子どもと保護者に寄り添いながら、支援が出来るように全職員で努力している 子どもの行動や発言に対しての気づきを大切に療育を行っている 子どもも保護者も安心して通うことができるよう、日頃からコミュニケーションを積極的にとる努力をしている	《子どもは通所を楽しみにしているか》 はい95%、どちらともいえない5% 飽きない工夫がされていてよいです 子どもはきぼうっこさんが、先生方が大好きです 毎回とても楽しみにしていました 《事業所の支援に満足しているか》 はい95%、どちらともいえない2%、わからない2% しっかり見てくださり満足です 本当に大変お世話になりました、深く感謝申し上げます	引き続き、子どもが楽しんで通所できるよう来所時や療育内容の工夫を行い、保護者に安心して子どもを預けて頂けるように全職員で協力していく。 また、より職員の専門性を高めるため、職員の知識を深める努力を続け、より良い支援ができるようする 保護者の悩みなどにもすぐに対応できるよう、日頃からコミュニケーションを図る努力を続ける